

北海道山行報告

参加者 和佐、藤田、池淵、青松、小嶋

2/22 (土)

割安な神戸発千歳行の夜間便にて北海道入り。今回は平日含んでの4連休、5名での山行となった。

7人乗りレンタカー借りるも、5人分のスキーと荷物を何とか載せて満杯状態でニセコに向かう。23:00に昆布温泉のペンションティンカーベルに到着。別荘1棟丸ごとの利用(5760円/人泊)で、一人1部屋の贅沢な貸し切り状態。非常に温かく、ゆったりできた。

2/23(日)

この日は強風予報で、スキー場に行くもリフトすら運休状態。山にも行けず、思案の末行けるところまでヒラスキー場横の林間をシール登山して行くことに。上に行くにつれガスと強風でつらい状態。標高880mくらいまで登って滑り降りてこの日は終了。硫黄臭さで有名な雪秩父温泉(700円)に向い、その後倶知安まで行って2日分の食糧の買い出し。

2/24 (月)

新雪が積もっていて朝から晴れて気温も穏やかで風もない。アンヌプリスキー場に行く「準備に時間がかかるが最上部のリフトが運航すれば頂上へのゲートも開くのでは」とのコメントも得られ、アンヌプリ滑降の夢がかなうとの期待から、8時間券(5000円)を購入してゲートのオープンを待つことにした。

「ええ沢ゲート」に朝一に行くと程よいパウダーがあり、歓声が上がるすべりを堪能することができたが、そのあと2~3回目にはすでに踏み固められて、通常のゲレンデ状態になっていた。昼前になると曇りはじめ、ゴンドラ上部では風が強くなり、ゴンドラも減速運転するようになった。この段階でTOPゲートのオープンはほぼ絶望的。この時間から別の山に行くこともできず、一日ゲレンデスキーをすることになった。14:00頃には風も収まり最上部のリフトも動き始めたが、TOPのゲートが開くことはなかった。

2/24 (火)

このままでは1山も登らずに終わってしまうとの危機感から、この日は早朝からシャクナゲ岳に向かう。閉鎖されたチセヌプリスキー場(現在はCATスキーが運航されている)から登る。6:25駐車場発。CAT後をたどってスキー場TOP到着が7:05。ここから軽い新雪ラッセルを楽しみながらシャクナゲ岳の科尔到着が8:15。強風のためかシュカブラが発達し、ところどころ氷結した状態。ピークまではあと少しだが前方の急勾配に安全をみて、1人を除きアイゼン登山に切り替えた。

アイゼンでは難なく登ることができピーク到着が8:40。薄雲りの中、羊蹄山、アンヌプリ、チセヌプリなど周囲の山々を堪能することができ、ピークに登ったかいがあった。

下りでは、パウダー滑降を少しは楽しめたがすぐに終了し、再度シールを付けてほぼ水平歩行をスキー場TOPまで進んだ。本日のハイライトは廃棄されたリフト左側のパウダー斜面で、ふもとまでの適度な斜度と新雪に、歓声が上がった。楽しい瞬間はあっという間に終了した(10:20)。

再び宿に戻って、荷物をまとめ、夕方の飛行機で千歳から神戸に向かい、今回の北海道山行は終了した。



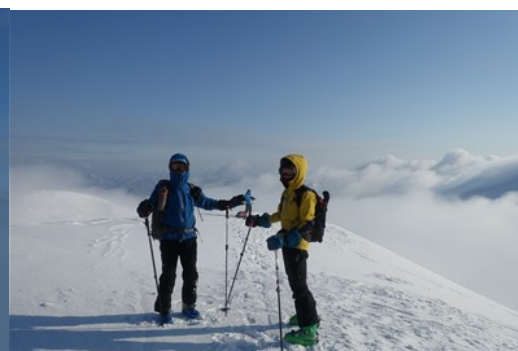
宿とレンタカー



アンヌプリスキー場 Gondola 終点



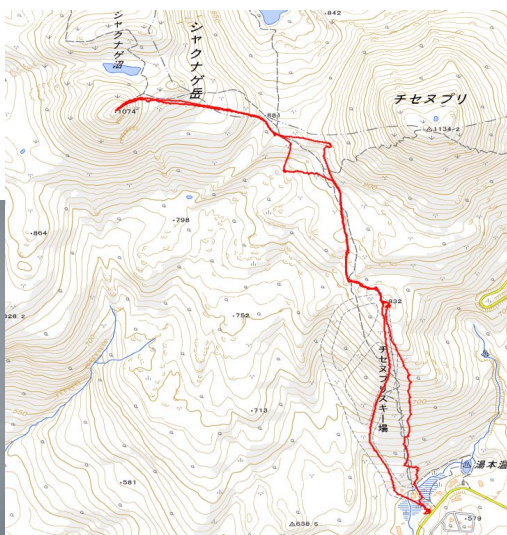
シャクナゲ岳頂上



頂上にて



滑降風景



トラック図